

T-12S方式

T-12S system (since 1956)

T-12S方式は、経済的な短距離回線の提供を目的に欧米の技術を参考に開発された初期方式。続いて長距離回線接続用のT-12方式を開発した。

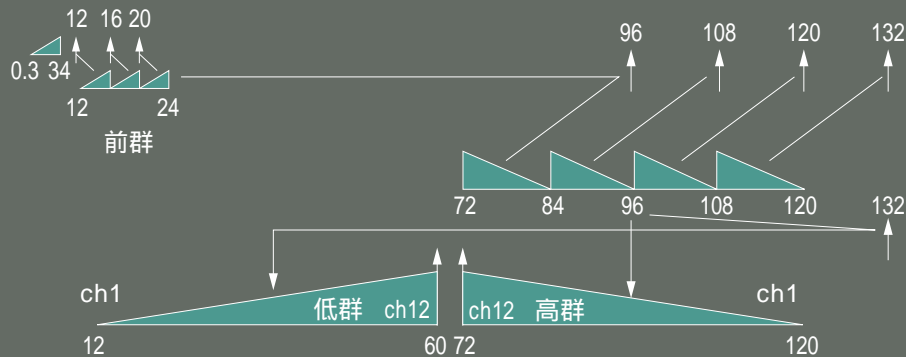
この方式はMT管の採用と海外からの小型実装技術、わが国初のプラグイン方式の導入で、装置の小型化や経済化を実現した。トランジスタ化され、統合標準方式として完成したT-12SRでは小型化や経済化がさらに進み、中継装置の柱上設置も可能となった。

T-12S方式の概要

Overview of T-12S system

方式	T-12S	AGC区間	2中継ごと (0.9mm 23km 架空率30%)
通話路数	12ch	信号方式	搬送波(零周波相当)継続、 通話時送出信号レベルは 通話レベルと同じ(-10dBm)
通話帯域	0.3kHz ~ 3.4kHz	伝送レベル	-10dBm
伝送線路	0.9mm紙 1.3mm DM	監視電波レベル	通話レベル以下5dBと同じ(-15dBm)
回線長	100km 100km		
中継間隔	標準	13km 20km	
	最小~最大	9-17km 14-26km	

通話路



周波数単位：kHz